



図 淡路市産ウマノオバチ



図1 クズ葉上のムネアカオオクロテントウ.



図2 本種が確認されたクズ群落.

筆者は 2020 年に本種を神戸市灘区の都賀川周辺で確認したので、ここに報告する。

データ

コウチュウ目 テントウムシ科 ムネアカオオクロテントウ

*Synona consanguinea* Poorani, Šlipiński & Booth, 2008

1ex., 神戸市灘区千旦通, 都賀川公園, alt. 30m, 27. X. 2020, 吉田浩史.

本種は、主としてクズに付くマルカメムシを捕食するとされている(初宿, 2021)。このため筆者は、2018 年にも神戸市内においてクズがまとまってみられる 3ヶ所で調査を行ったが(吉田, 2019)、本種の確認には至らなかった。

調査した 3ヶ所のうち、東灘区六甲アイランド南公園については、後に近隣の別の公園で本種が確認された(初宿, 2021)。また残る 2ヶ所は 2020 年 11 月に筆者が再調査を行ったが、須磨区須磨海岸では本種は確認されず、中央区神戸空港島は工事中で以前確認したクズ群落が伐採されてなくなっていた。

謝辞

初宿成彦学芸員(大阪市立自然史博物館)には本種の情報についてご教示頂いた。ここに厚くお礼申し上げる。

○参考・引用文献

中西康介・松原豊・青井光太郎・持田浩治・日高直哉  
2016. 外来種ムネアカオオクロテントウを東京都お

確認日：2020 年 6 月 6 日

確認個体：1 ♀

○参考文献

兵庫の貴重な自然兵庫県版レッドリスト 2012 (昆虫類)  
<https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/JPN/apr/hyogoshizen/reddata2012/index.html>

(最終閲覧：2021 年 5 月)

(Mei YAGUCHI 東京都練馬区)

神戸市内からのムネアカオオクロテントウの記録

吉田浩史

ムネアカオオクロテントウは、中国南部・台湾・東南アジアを原産とするテントウムシ科の外来種である。

国内では 2016 年に初めて報告され、2014 年から採集記録がある事が判明した(齋藤ら, 2016; 中西ら, 2016; 初宿, 2021)。

2020 年の時点で、関西では大阪府、関東では東京都を中心として分布を拡大している。兵庫県では、大阪府から 2019 年に分布拡大したと考えられるものが西宮市、三木市、伊丹市から神戸市東部で記録されたほか、2018 年から姫路市を中心に飛地的に分布を拡大している(初宿, 2021)。

よび神奈川県で発見. さやばね (N. S.), (21): 58.

齋藤琢巳・春沢圭太郎・初宿成彦 2016. 大阪府下における *Synona* 属テントウムシの記録. 月刊むし, (539): 46-47.

初宿成彦 2021. 大阪市立自然史博物館・外来生物調査プロジェクト (Project A) によるムネアカオオクロテントウ・ユーカーリハムシ・ヨツモンカメノコハムシの市民調査報告. 大阪市立自然史博物館研究報告, (75): 53-77.

吉田浩史 2019. 神戸市とその周辺における分布拡大中の昆虫についての調査記録. きべりはむし, 41(2): 32-35.

(Hiroshi YOSHIDA 神戸市東灘区)

## 神戸市内からのタケクマバチの記録

吉田浩史

はじめに

タケクマバチは、膜翅目ミツバチ科に属するハナバチの一種であり (多々内・村尾, 2014), 2006 年に愛知県及び岐阜県から初めて確認された外来種である (矢田, 2007).

筆者は、2020 年に本種を神戸市南東部の 3 ケ所で目撃・写真撮影した. ネット上の情報を検索した結果, 前年 2019 年の記録を発見したため, 記録者の許可を得てここに合わせて報告する.

なお, 本種の和名についてはタイワンタケクマバチが使われる事が多いが, 今回は松本・西本 (2020) の見解に従いタケクマバチを使用した.

生態等

本来はアジア大陸及び台湾に分布する (川添, 2019). 成虫は 4 ~ 9 月に出現し, 各種植物を訪花する (多々内・村尾, 2014).

日本国内では, 2006 年に愛知県及び岐阜県から記録 (矢田, 2007) された後, 東京・埼玉・静岡・長野・石川・福井・三重・滋賀・京都・奈良・大阪・兵庫・岡山・鳥取と, 関東地方から中国地方東部にかけて分布を拡大している (柴田, 2020).

兵庫県では, 大草伸治氏の私信として 2011 年に赤穂市で確認されたと記録されている (間野, 2012). その後, 尼崎市 (上森, 2018) 及び明石, 三木, 加古川の各市 (柴田, 2020) から記録されている. 神戸市においては 2015 年の時点で未記録 (神戸市, 2015) で, その後の記録もないようであった.

データ

膜翅目 ミツバチ科 タケクマバチ

*Xylocopa tranquebororum tranquebororum* (Swederus, 1787)

2 ♂ (目撃), 神戸市須磨区板宿町, alt.50m, 5. V. 2019, 山下雅司; 1 ♂ (写真 1), 神戸市須磨区大手, alt.60m, 5. V. 2019, 山下雅司; 1 ♂ (写真 2), シャリンバイ訪花, 神戸市灘区新在家北町, alt.5m, 8. V. 2020, 吉田浩史; 1 ♀ (目撃), デュランタ訪花, 神戸市東灘区岡本 (阪急岡本駅南側), alt.30m, 29. VII. 2020, 吉田浩史; 1 ♀ (目撃), 神戸市東灘区岡本 (阪急岡本駅北側), alt.35m, 6. IX. 2020, 吉田浩史.

2019 年には山下雅司氏により, 神戸市須磨区の 2 ケ所においてホバリング中のオス計 3 個体が確認された. うち 1 個体については, 山下氏が標本を保管している.

2020 年には筆者により, 灘区及び東灘区の市街地 3 ケ所において植栽を訪花中または飛翔中の個体が目撃された. いずれも確認当時捕虫網を持っていなかったため, 標本は残されていない.

このように神戸市の南西部から南東部にかけて複数の地点で確認されたことから, 2020 年の時点ですでに市内の広い範囲に生息している可能性が高いと考えられる.

謝辞

山下雅司氏にはデータ引用の許可のほか, 写真をご提供頂いた. 松本吏樹郎学芸員 (大阪市立自然史博物館) には文献情報をご教示頂いた. 河合正人氏には訪花植物



図1 タケクマバチ (オス) 標本写真 (山下雅司氏撮影).



図2 シャリンバイを訪花するタケクマバチ (オス) (筆者撮影).